

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

足立区立栗原北小学校 校長 石川 雅章

1 学校教育目標

- ・かながえる子
- ・がんばる子
- ・やさしい子
- ・げんきな子

2 現状の学校図書館の課題

- 好きな本の分野に偏りがあり、多様な分野の本に触れることができていない。
- 本好きの児童は多いが、読みの深まりや広がりには欠ける。
- 読書量の個人差が大きい。読書が苦手な児童に読書の楽しさを伝えることが課題。

3 今年度の学校図書館の目標

- 多様な取り組みを通して本の楽しさにふれ、読書習慣の構築を図る。
- 多様な本との出会いを通し、豊かな心情と幅広い知識を身に付けさせる。
- 多様な資料から目的に応じた情報を選択し、課題解決をする能力を伸ばす。
- 学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整え、児童の読書に対する意欲を高める。

4 今年度の重点取組

- ① 多様な取り組みを通して本の楽しさにふれさせ、様々な分野の本を読むようにさせる。
- ② 学校図書館で調べ学習が円滑にできるよう、図書館資料の整備に努める。
- ③ 時間や場所など様々な環境を工夫し、より利用しやすい図書館づくりをする。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	①としょかんへいこう ①としょかんとなかよし ①じどう車ずかんをつくろう ①むかしばなしをよもう ②「生きものクイズ」で知らせよう ②おもちゃのせつめい書を書こう ②アレクサンダーとぜんまいねずみ ③図書館たんていだん ③仕事のくふう、見つけたよ ③本で知ったことをクイズにしよう ③食べ物のひみつを教えます ④分類をもとに本を見つけよう ④ひろがる読書の世界 ④「読書発表会」をしよう ④クラスの「不思議ずかん」を作ろう ④「便利」をさがそう ⑤作家で広げるわたしたちの読書 ⑤方言と共通語⑤古典の世界 ⑥みんなで作ろうパンフレット ⑥パネルディスカッション ⑥広がる読書の世界 ⑥「知恵の言葉」を集めよう
社会	③お店のしごと ③安全な暮らしを守る ③足立区のうつりかわり ④ゴミの処理と再利用 ⑤わたしたちの食生活を支える食糧生産 ⑤工業生産とわたしたちの暮らし⑥新聞作り
算数	⑤ 帯グラフと円グラフ
理科	③こん虫のかんさつ ④月と星④動物のからだのつくりと運動 ⑤流れる水の働き ⑤人のたん生 ⑤花から実へ ⑥動物のからだのはたらき ⑥生き物どうしのかかわり ⑥大地のつくりと変化
生活	① きせつとなかよし ①手づくりおもちゃをつくろう ② めがせ生きものはかせ ②つくってためして
図工	① おはなしだいすき②ことばのかたち ⑤じっとみつめると

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

保健体育 ④ ケガの防止

家庭科 ⑤ 持続可能な社会へ ⑤ものやお金の使い方

実践の評価

- ①学年共通の取り組みとして毎日絵本の読み聞かせを行ってきた。その結果、落ち着いて話が聞ける、想像を膨らませるなどの効果が得られ、学級経営の基軸となった。
- ②自分が調べたい生き物の本を借りて、クイズや新聞作りを行った。図書資料により、絵を入れた専門的な内容にすることができた。図書資料を見ながら、児童が主体的に活動できた。
- ③社会や理科では、学校図書館の本を使って調べ学習を行うことができた。国語では、学校図書館の使い方を指導できた。
- ④国語の学習では、お勧めの本を紹介するために積極的に図書館を利用した。また、物語を書く单元では、短い物語を用意し、児童のイメージを膨らませることができた。
- ⑤国語の学習では、効果的に資料を使うために統計資料についての図書資料が有効であった。総合的な学習では、各目標についてまとめた資料と地域や国ごとの本を活用できたことで、理解が深まった。国の様子や現状をとらえやすくなった。
- ⑥パネスディスカッションで話す自分の考えの根拠を探すために学校図書館を活用することができた。伝記を読み、考えをまとめる活動を取り入れたことで、自分の考えをまとめることがしっかりできた。

6 図書館運営計画

（１）日常的な取り組み

- ① 読書時間の確保（週１回朝読書） ② 読む本は図書館から借りる

（２）主な行事の取り組み

- ① 読書月間年２回 ② 読書マラソン

（３）図書委員会などの取り組み

本の紹介(pop)の作成 貸出・返却
読書週間のしおり・ブックカバーの作成

（４）環境整備の取り組み

学校図書館の環境整備を図書支援員や図書ボランティアと協力して４月中に整える。既存の寄贈本や新規購入図書の受け入れ、登録作業を１０月中に完了させる。夏休みの床工事に伴う閉館時に、廃棄図書を確定させる。蔵書構成を念頭においた新規図書購入計画を作成する。

（５）司書・外部との連携

- ① 学校図書館オリエンテーションの実施やブックトーク等、支援員の積極的な連携・協働に取り組む。
- ② 調べ学習をはじめ、授業に必要な教材や資料について積極的に支援員への相談や情報交換を行う。
- ③ 学校図書館支援員やボランティアとの連携を深め、明るく楽しい学校図書館づくりを実践する。
- ④ 学校図書館支援員の勤務日は、学校図書館を開館し、中休み、昼休みなど可能な限り児童が利活用できる時間を作る。
- ⑤ 学校図書館を使う読書活動を低学年は週１回、中学年以上は２週間に１回行い、また、調べ学習も各学年の年間指導計画に沿って行う。
- ⑥ 年間を通して図書ボランティアによる読み聞かせを行い、日頃から読書に興味をもてるように働きかけを行う。

実践の評価

月１回学校図書支援員と司書教諭が学校図書館の運営スケジュール管理、環境整備、分類変更等について細かく打ち合わせをしてきた。その結果、スムーズに運営がなされた。また、学校司書による読み聞かせや各学年の学習内容に応じて図書資料のテーマ展示をするなどし、本を読む場としてだけでなく、情報源を得る場所として、学校図書館が機能できた。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	図書館のしくみを理解し、様々な分野の本や資料を読むようにさせる。	児童の年間平均貸出冊数：45冊	今年度の年間平均貸出日数は49.81冊であり、目標を達成できた。
②	自らの課題解決のため、ICTと本、新聞など、複数の情報を活用して学習させる。	ICTと図書を併用した調べ学習を実施した回数：年10回	学習発表会もあり、どの学年も年間10回以上活用できた。
③	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	授業で図書や資料を活用した教員の割合：100%	芸術系の教員・特別支援教室・算数少人数の教員以外は、活用できた。

8 学校図書館全体に関する自己評価

学校図書館の活用が進んできた。図書館も本を読む場所、借りる場所だけではなく、図書の情報が溢れる環境になっている。また、ICTと図書を併用し、児童が課題解決できるようになってきた。年間の図書貸し出し数も概ね達成できている。しかし、低学年に比べると高学年の達成率が低いのが課題に挙げられる。